清掃指導を生徒会活動と結びつける提案

そうじがしっかりできる学校を目指そう～生徒の自治組織を活用して

◆　所属・提案者（◎代表者）

狭山市立入間野中学校	◎星　妙織・工藤　瑠美・山浦　実

ねらい

本校は、昨年度地区の中学校統廃合で２校が統合したことにより、新生入間野中学校としてスタートした。統合に絡む様々な問題を教職員が協力して解決に当たっている。昨年度、感じたことの１つは生徒たちの勤労意欲にかなり温度差があり、清掃活動状況が芳しくないということであった。年度末に取った生徒会アンケートでは、「そうじの取組状況」を課題として挙げている生徒が多かった（入間野中生が掃除をあまりやっていないと回答した生徒は全校平均で３２．６％）。そこで、今年度１年をかけて、生徒の自治組織を活用しながら清掃活動がしっかりできる学校にしていきたい、清掃活動を通し、役割を全うすることの大切さや、協力して仕事を進める段取り力、ひいては物を大切にする心を育てたいと考えた。

実践内容

①　生徒会アンケートを取り、「入間野中生は清掃をあまりよくやっていない」ことが多くの生徒の共通意識であると全校生徒で確認した。前年度末にまとめの生徒朝会で「そうじがしっかりできる学校に改善していきたい」というメッセージを生徒会長から全校生徒に送った。

今年度、５月末に行われた生徒総会で、今年度の生徒会活動の重点目標の１つとして「清掃を大切にできる学校を目指すこと」を挙げた。具体的な活動として、生徒会本部が美化委員会に直接働きかけることなどを盛り込んだ今年度の議案書が生徒総会で可決された。　（右写真：生徒総会での提案）

②　清掃場所担当の教師に協力を仰いだ。生徒会予算を使い、細かな清掃用品の充実を図った。購入した「洗剤を用いず、水だけで汚れを落とす使い捨てスポンジ」・「ナイロンたわし」は小さくカットし、多くの生徒が清掃中に使える状態にした。例えば、階段そうじでは１５分という清掃時間をややもすると持て余してしまうが、壁磨きをする道具を一人ひとり生徒が持っているということで、確実に手持ち無沙汰な生徒が減った。また、集中して掃除をする生徒を教師がほめる場面が増えた。そのことは清掃活動に対して生徒たちの意識改革につながっていると思われる。

（右写真：使い捨てスポンジを使用し掃除に集中）

１学年においては、教室掃除用に掃除セット（クレンザー・小さくカットしたナイロンだわしが６つ・入っている）を持ち運びできるかごに入れて用意し、普段のそうじのときに、曜日指定で使用するように習慣づけた。月曜日は５組、木曜日は４組…、といった具合である。週に一度のこのセットの使用時は清掃分担を工夫する必要があるが、１５分のそうじの中でも教室の壁や床汚れなどを集中的に落とすことができるため、ルーティーンな作業にアクセントを加えることとなった。生徒のそうじに対する意欲向上に功を奏した。清掃セットは、現在教員が持ち運んでいるが、徐々に生徒が管理できる状態にしていきたいと思う。

（右写真：週に一度、普段のそうじの中で汚れを念入りに落とす）

③　掃除のやり方の紹介ＶＴＲを作成した。

掃除がしっかりできることは当たり前のことだ、という意識の輪を広げたいと考えた。そこで、本部会で「そうじのやり方ＶＴＲを制作」し、生徒朝会等で上映することを決定した。専門委員長会でＶＴＲ制作の協力を得、実際の撮影は３年生徒（専門委員長と美化委員）によって行われた。生徒のリーダーとそうじの委員会を活用してのこの取組は生徒自らのアクションであり、学校全体の清掃活動に対しての底上げにつながると考える。

（右写真：撮影時の様子）

④　活動の経過と今後の活動の見通し

今回作成したそうじＶＴＲは「教室そうじ」がテーマである。これを１０月の生徒朝会で上映し、その後、本部役員の改選の時期（１１月）に合わせて再度、生徒会アンケートを取った。（掃除を「あまりやっていない」のポイントは１５％ほど下がり、生徒の意識の向上が確認された。）

新役員決定後に「トイレそうじ」「階段そうじ」のやり方ＶＴＲ制作企画を始めた。制作にあたってはスタッフを美化委員と１・２年生から有志で募った。ＶＴＲは生徒朝会等で全校生徒に紹介していった。

次年度、新入生オリエンテーションなどで４月に入学する１年生へ掃除のやり方ＶＴＲを紹介し、「掃除がしっかりできる入間野中」の伝統創りに積極的に生徒会が関わっていく。

実践時期・期間

前年度１月　生徒会アンケート実施
２月　生徒会本部での次年度の課題決定
３月　生徒総会に向けての議案書作成
５月　生徒総会での承認
具体的な活動についての話し合い
６月　生徒会費で清掃用品の購入
７月　委員長会議での提案
ＶＴＲ作成
（１０月）ＶＴＲ上映
生徒会アンケートの実施
（１１～１月）ＶＴＲ作成
（２～３月）次年度への課題引継ぎ

他校で導入するポイント

どこの学校でも可能です。安い掃除用品を大量に仕入れ、生徒が使えるようにすると、掃除中に遊ぶ生徒が確実に減ります。ただし、最初は教師でその用品を管理する必要がありますが、掃除中にほめられる環境を第一につくることが近道に思います。

実践の成果や課題

- そうじ中に教師が「そうじをきちんとする」ように注意を加えることが減ってきている。
- 自分たちが掃除した場所を汚さないようにしようとする生徒の心配りが見て取れる。例えば、前年度に比べて破損物が減っている。放課後の教室ごみが減っている。また、トイレにおいては確実に匂いがなくなってきている箇所もあり、その変化が生徒自身にもわかることから、ますます清掃活動に意欲的になっている。また、１５分のそうじを効率よく行うように段取りを考え、清掃分担や方法を工夫している様子がわかる。
- 生徒会のリーダーが積極的にそうじのＶＴＲ作りに携わったことで、しっかり掃除をすることが当たり前の風潮が広がることを期待する。
- 学年や班によりまだ温度差があるので、今後、意識調査を行い、生徒の意見を加えながら、全学年で清掃活動がしっかり行える学校を目指したい。ひいては、それが学校の伝統となるようにしたい。

セールスポイント

- 教師が掃除の様子を通して褒める場面が増えます。
- 生徒が物を大切にするようになります。
- 「リーダーは掃除もちゃんとやるんだ！」という下級生の意識が高まります。

より高い効果が得られる方策など

縦のつながりで有効な部長会の協力を利用すると効果的だと思います。リーダーは普段の生活がしっかりできて当然、掃除もしっかりできて当然という意識を生徒に植え込むことが大切だと思います。

失敗しないための方策

- 教師からの一方的な指導ではなく、生徒が決めたことを教師がサポートしているのだというスタンスを大事にすること。
- ＶＴＲを制作する際、その趣旨を説明し、普段そうじをあまりやらないのに目立ちたがりの生徒をキャストに起用しないこと。

外部有識者からのコメント

生徒会が中心となって、生徒の主体的な清掃活動につながっている。清掃の様子をＶＴＲで紹介する等、具体的な清掃の様子が見られてよい。

学校の課題を生徒会で取り上げることは生徒会活動の自治性、主体性を意識する良い機会である。

学校の統合という特殊な状況をきっかけとした、生徒会によるダイナミックなＰＢＬ（課題解決学習）の取組であり、教育課程や学校組織に的確に位置づけていくことで、清掃をすることが統合後の学校文化として根付いていくことになる。